

令和 5 年度

行政視察報告書

遊佐町議会

新・道の駅整備に係る調査特別委員会

1 視察日程

令和6年2月28日（水）

2 視察者

特別委員会

委員長	齋藤 武
委員	那須 正幸
委員	齋藤 弥志夫
委員	本間 知広
委員	渋谷 敏
議長	高橋 冠治

（随行者）

議会事務局

事務局長 土門 良則

視察の目的

令和5年山形市と最上町に道の駅が相次いでオープンした。いずれも既存の観光施設（山形県観光物産館ぐっと山形、川の駅ヤナ茶屋もがみ）に並んで設けられている。この点遊佐町の道の駅は周囲に観光施設のない全くの更地への移転開業となり趣意を異にするが、既存の観光施設との役割分担やいわゆる住み分けのあり方は、広く道の駅の姿を検討するうえで学んでおくべきと考え視察を行った。同じ県内であり、近い将来、道の駅相互の相乗効果によって観光の振興に寄与することも期している。

視察１ / 道の駅 もがみ 「あつつえ」

説明者

最上町議会

副議長 佐澤 浩 氏

事務局長 金田 敏幸 氏

最上町役場 商工観光課

課長 阿部 剛 氏



施設の概要

「あつつえ」は最上の方言で「ありますよ」

もてなしたい 手伝いたい そしてねぎらいたいときに ふと 遣ってしまう

最上地方の言葉。

令和５年１１月２６日に道の駅「もがみ」としてオープン。その特徴は

- ・日本海と太平洋を結ぶ一般国道４７号に位置し、山形県の東の玄関口として物流。観光。ビジネスと言って道路利用者の利便性向上と、町内外への誘客及び地域住民活躍機械の創出により地域活性化による交流拠点
- ・周辺の観光・イベント情報や地域の資源・史跡・各種体験等の情報を、「最上町観光協会」がコンシェルジュとして対面にて情報提供
- ・地域サークル活動、各種研修等、多様な目的に合わせて利用できる交流スペースを設置

第1 視察での調査事項

■総事業費について

当初予算は、建屋 250,000 千円の予算であったが、
昨今の物価高騰の煽りもあり

総事業費 394,000 千円のうち建屋にかかった
費用は 319,000 千円となった。

国からの補助金については建屋の費用の 5 割
はデジタル省からの予算で一般的な補助金について
はおそらく 3 割位で、駐車台数とトイレの割合で国
からの予算は違ってくる。交渉に交渉を重ねていかな
いと国からの予算は見えてこなかった。



■なぜこの場所に道の駅を

山形県の道の駅構想があり、もともと 47 号線上に道の駅がなかったため最上町に道の駅を造ろうと県からの働き掛けもあり運動が始まった。道の駅の事業化には国との調整が必要で検討委員会立ち上げから 8 年もかかった。この場所に決まるまでには、外部委員会を立ち上げ、候補地として庁舎付近、県境、もともと川の駅「ヤナ茶屋」があったこの場所と 3 か所の中から最上の売りでもある、山と川のあいまる場所で産直が盛んな所と、集客能力のある場所の連携が取れるとしてこの場所に決まった。

■道の駅としてのねらい

現在産直の会員は 40 名で、売り上げとしては道の駅ができる前と比較すると

1.3~1.4 倍増の売り上げとなっている、

これまで、35,000 人ほどの入れ込みがあり今後は温泉客などの誘客を増やしていく。



視察 2 / 道の駅 やまがた蔵王

説明者

株式会社 表蔵王ベルタウン

道の駅 やまがた蔵王

駅長 青木 哲志 氏



施設の概要

<山形の魅力を発信し、人の流れを生み出す道の駅>

- ・蔵王、そして山形の地域資源のみ魅力を発信し、人を呼び込むゲートウェイ機能を果たし新たな人の流れを放出する空間。
- ・周辺施設等の連携の要として道路利用者のみならず市民、そして周辺地域の住民が日常的に集い、山形を体験しながら心地よくくつろぎ交流できる空間。
- ・休憩・情報発信・賑わい創出・交通結節・防災【5つの機能】を備え、駐車台数:367台大型34台収納な大型の道の駅で令和5年12月13日にグランドオープンした。
(ぐっと山形)の南側隣接地にあたり、令和6年2月26日までの3か月間での来場者は50万人を超える賑わいを見せている。

第1 視察での調査事項

5つの機能について

1. 休憩 ～おひとりでも、家族でも安心して過ごせる心地のよさを大切に～

トイレは男性用28器女性用53器バリアフリースイートイレ2器の合計83器を備える。バリアフリースイートイレは男性・女性、どなたでも使え、オストメイト対応となっているほか、ベビーチェアやフィッティングボードなども備えている。

自販機メーカーとの連携でトイレ前には蔵王オリジナルの紙おむつ自販機も設置
ベビーケアルームにはミルク用の給湯器やおむつ交換台を設置した2つの個室も備える。
女子トイレには道の駅オリジナルのサクラノ柄のスツールを設置した24時間利用可能なパウダールームも併設されていて休憩を楽しむ空間の工夫があった。



2. 情報発信 ～道路情報はもちろん観光情報の確認から予約まで～

VRゴーグルが無料で使用でき四季折々の蔵王の雄大な景色を体験できる。また大型モニター3台を使い世界中からたくさん訪れる観光客に「蔵王」の魅力を発信。同じブースには体験型旅行商品の予約ができ、外国語対応のスタッフが常駐する総合案内所も設置、季節を問わず蔵王を含めた観光の魅力を感じることができる自慢のスペースである。



3. 賑わい創出 ～山形の魅力を体験し、いつでも誰でも楽しめる道の駅～

県内外、たくさんの方々へ魅力を発信する多目的ホール「樹氷ホール」では、ラーメンイベント・音楽イベント・マルシェ・交流イベント・工芸や展示会の体験イベント・食のイベントなど開催。誰でも利用できる厨房が併設されていて出来立ての料理を提供できる。また天候に左右されずに室内でキッチンカー販売も可能となっていて利用頻度の多さを窺うことができた。



館内には、独自のラジオ放送ブース、イベントスペース、車中泊スペースなどを設け電源盤を設置してキャンピングカーにも対応できるよう、長距離での運転の疲れを癒す環境も整っていた。

4. 交通連結 ～公共交通がより便利に 楽しさがここから広がる～

24時間利用可能なバス停留所とバス待合所があり、待合所の隣には更衣室も設置されていた。バス利用の方や蔵王にスキーに行かれる方などの着替えに便利。また無料の駐車場があり、車を置いて高速バスや路線バスに乗り換えちょっとしたお出かけに利用することもできる。

5・防災 ～山形市民、利用者の安全・安心な場所へ～

道の駅やまがた蔵王は防災機能を備えている。災害時には道路利用者や観光客、地域の方々の一時避難場所として、また自衛隊や消防など関係機関の活動拠点として活用でき、駐車場での車中避難も可能となっていた。

24時間エリアでは、常設の大型モニターで道路情報や災害情報を提供し、防災倉庫には毛布などの備蓄品を備え、非常用電源装置と受水槽により3日分の電源と水が確保されている。また非常時に利用できるマンホールトイレも10器設置されていた。



まとめ

「道の駅」・「未知の駅」・「魅知の駅」新たなビジネスを創出する道の駅、目指す道の駅はどんなのか、「道の駅もがみ」、「道の駅 蔵王」、二つの道の駅の規模や業務内容に違いはあれど、目指すコンセプトはしっかりとしていた。

特に「蔵王」では効果的なマーケティングを行うため、車両ナンバー集計システム「ナンバーアイ」を導入し、勘によるマーケティングからデジタルマーケティングへの変換を図り、プランを立てるための前データをしっかりと取っていた。また企業活動支援を行う為、いろいろな産業のボトムアップやホームページ・チラシ・パンフレットなど、いかに経費をかけないでマスコミなどを利用させてもらうかなど、しっかりとしたマネジメントディレクターを選んでいること。「観光っていろいろ稼げる、みんなで儲かる話をしながら」地域づくりと人材育成を一緒に行っていた。なかでも印象に残ったのは、駅長の存在だ、前職が山形市の観光部局出身ということもあり、山形を知り尽くしていて適材適所に目がとどき、その経験が運営に大きな影響を与えていることが「道の駅蔵王」の魅力となっていたことだ。